

第1回母子健康手帳等に関する意見を聴く会 議事概要

1. 日時

令和3年8月27日（金）17時00分～19時00分

2. 場所

厚生労働省子ども家庭局1205会議室（オンライン）

3. 出席者

奥山千鶴子（子育てひろば全国連絡協議会／認定NPO法人びーのびーの）

松田 妙子（NPO法人せたがや子育てネット）

森田 圭子（NPO法人ホームスタートジャパン）

子育て中の厚生労働省職員（男女1名ずつ）（子育て中の当事者として参加）

（敬称略50音順）

※第2回以降の出席予定者がオブザーバーとして参加

4. 進行内容

- （1）母子保健課長挨拶
- （2）事務局から資料に沿って説明
- （3）出席者より資料に沿って説明
- （4）意見交換

出席者及びオブザーバーからの主な意見は以下の通り。

1) 母子健康手帳について

○母子健康手帳への父親や家族の情報の記載について

- ・母子健康手帳の名称を考えることが必要。父親の情報のページがあると良い。別冊にすると紛失する人も出てくるので配慮が必要。
- ・パートナーと一緒に話し合しましょう、家族と一緒に書き込みましょう等、父親や家族の参画を促すページがあると良い。

○母子健康手帳の予備欄等の活用について

- ・予備欄や学級受講記録欄は、地域子育て支援拠点等に来所した際の記録として、子育て支援者がハンコを押すようなことができるとよい。
- ・地域子育て支援拠点や支援サービスを利用した際に、切れ目ない支援に繋がったことを記録できる欄があるとよい。

○母子健康手帳の電子化について

- ・パートナーと共有できる情報、予防接種記録のように長く使う情報、社会資源等の量が多い情報はデジタル化できるとよい。QRコードを活用する等し、最新情報にアクセスできると良い。個人情報なので、デジタル化にはしっかりしたセキュリティ対応が求められる。
- ・紙とデジタルの併用が良い。世代もあるかもしれないが、紙派の人も一定数いる。デジタルが苦手を使いこなせない方、目に障害がある方もいるので配慮が必要である。デジタル情報は、ほしい情報だけを見に行くこととなりやすい。求めなくても重要な情報もあるので、うっかり飛び込んでくる仕掛けをつくる等の工夫が必要。
- ・デジタル情報は、取りたい情報しか取りに行かず、QRコードも意外と見ない。命に関わるもの等の必要最小限は紙に掲載し、転居するたびに記載内容が変わるものはデジタルでカバーできると良い。予防接種記録は、子どもが大きくなると忘れる人が多いのでデジタル化してほしい。

○母子健康手帳情報の子育て支援者と共有について

- ・子育て支援センターに相談に来られる方で、いつも母子健康手帳を持参する方がいる。子育て支援センターが見ることができる専用のページがあっても良いのではないかな。
- ・子どもの一時預かりを行う際は、面談で母子健康手帳を見せていただく機会をつくっている。子育て支援者と一緒に手帳を見る機会や、支援者と一緒に書き込めるページがあると良いのではないかな。
- ・関係している自治体では、母子保健コーディネーターの配置場所や連絡先等の社会資源一覧が母子健康手帳に記載してある。この一覧を妊婦さんと一緒に見ながら、出産や育児についてのプランをつくる支援をしている。妊娠中に、地域の社会資源を把握し具体的にどう活用するかを妊婦さんやそのご家族が考える時間が大事ではないかな。
- ・母子健康手帳には、子どもの発達の段階で、何が出来て何が出来ないかな等の個人情報の記載が多いため、手帳を見るのは助産師や保健師等の有資格者である場合が多いと感じる。ただ、地域の子育て支援者と一緒に見るページができれば、手帳をツールとして母子保健と子育て支援がクロスオーバーしていくことができるのではないかな。
- ・近所の子育て支援センターで母子健康手帳を配布していることは知っていたが、不妊治療を経ての妊娠だったため、利用者が眩しく見えて子育て支援センターは近寄りがたかった。出産後は支援センターに通うようになったが、デビューの心理的ハードルが高かった。既にグループができていたら入りにくいなど子育て支援センターに行きにくい、妊娠中はまだ赤ちゃんがないためそこに行って良いのかわからない、と感じる人もいる。子育て支援者の方と一緒に社会資源を見ながら、どのような人が利用できるのかが確認できたり、子育て支援センターの様子や雰囲気や予め分かたりすると、行ってみようという気持ちになれるので、そのような機会があるとよい。

○母子健康手帳の形態について

- ・母子健康手帳には「妊娠期の情報があるため父親が勝手に見られない」という声や、「母からもらった自分の手帳は子育てのバイブルとなるが、妊娠期のデータは見ない」という声を現場で多く聞く。母と子の情報は切り分けてもよいのではないかな。

- ・ファイリングできると良いという声もある。多胎なら多胎版が差し込めるとよい。多胎手帳等を作っている自治体もあるが、両方持たないといけなくなるので、積み上げてセットできるのがよい。望まない妊娠により生まれた子どもが、どう手帳を受け継ぐのかについても気になっている。個別に伴走できる手帳になるとよい。
- ・多様な家族に対応できる、オーダーメイドの手帳が今後必要になってくるのではないか。
- ・母子の人生の中で父親が替わることがあると思う（離別、再婚など）。そこの取扱いが上手くできる作りになるとよい。

2) 今後の母子保健施策について

○母子健康手帳等の使い方の説明について

「母子健康手帳には参考になることが書いてあるが、使い方や何がどこに書いてあるか分からないという方がいる。配りっぱなしが多い印象である。母子健康手帳や子育てブックの使い方を話す機会があるか教えてほしい。」という質問に対し、下記の意見があった。

- ・区と連携しながら両親教室を開催し、その中で地域の情報を説明している。
- ・『あやしてあげてね』と保健師さんに言われたけど、『あやす』って何ですか。」と母親に聞かれたことがあり衝撃だった。「赤ちゃんのあやし方・話しかけ方講座」を実施し、そこで具体的な内容を話している。講座でなくても日常的に伝えられる場所があれば良い。乳幼児健康診査や教室を地域の中に持って行く等の仕掛けがあるとよい。
- ・母子保健コーディネーターが支援プランを立てる手伝いをしており、その際、必要とする人には手帳の説明をしている。転居してきた方から聞いた話では、母子健康手帳をもらった後に面談ではなくて手帳の説明会があるとのことだった。知らないことがいっぱいあったと話しており、母子健康手帳の説明会があってもよいと思った。

○地域の社会資源との繋がりについて

- ・縁の無いところ（夫婦の出身とは異なる土地）に引っ越してきて出産し、昼間は仕事もしていたのでご近所に知り合いもできず、地域のことが分からなかった。子どもの小学校入学時は知り合いゼロからのスタートだった。出産前の学級や乳幼児健康診査は、出産予定日や子どもの誕生日ごとではなく、多少誕生日がずれても同じ学区の人が集められると顔見知りになるきっかけとなり安心感があると思う。こういう気持ちを知ってほしい。
- ・小学校の通学区程度の地域の会場を活用し、月1回程度開催している子育てサロンや赤ちゃん会のようなものに参加した際に、参加者を地域子育て支援拠点に繋いでいる。地域毎の集まりや地域に繋がれる所がたくさんできると良い。
- ・産休は地域で過ごす最初の時間である。その際、どのように地域と関わることが後に響いてくる。訪問の活動をすると、地域でもらったチラシを全部壁に貼って「いつか行こう、いつか行こう。」と思っている方々にお目にかかる。Webや電子データに限らず母子健康手帳配布時にどう伝えるかがキーだと思っている。

3) その他のご意見

- ・母子健康手帳は役に立っているが、情報過多になることや、時間が経過すると内容が変わってくるのが気になっている。子育て支援の情報を母子健康手帳にどれくらい盛り込むべきか、むしろそこだけは別冊にし、母子健康手帳から切り離した方が良い気もしている。今日の子育て支援の議論は大事なところなので、それを母子健康手帳とどう絡ませることが適切なのか議論していただければ有り難い。